

シンポジウム

大方 美香（おおがた みか）

大阪総合保育大学学長・教授 博士（教育学）

〈プロフィール〉

専門・専攻

保育学・幼児教育学・乳児保育カリキュラム

社会的活動

日本保育学会理事（副会長）、日本乳幼児教育学会理事、日本乳幼児教育・保育者養成学会理事、日本保育協会理事、全国保育サービス協会理事

主な職歴・活動

自宅を開放して地域の子育てサロンぶらんこを主宰、大阪府「こころの再生会議」大阪の100人、全国社会福祉協議会「保育の友」編集委員長、全国社会福祉協議会保育専門部会委員、全国社会福祉協議会「福祉サービスの質の向上推進委員会」委員、奈良市・池田市等の子ども・子育て会議委員長、厚生労働省「子育て支援員（仮称）研修制度に関する検討会」専門研修ワーキングチーム（地域保育）構成員、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説作成協力者、文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育部会委員、厚生労働省社会保障審議会児童部会保育専門委員会委員、文部科学省中央教育審議会委員 歴任

著書	出版社	発行年	備考
ワークで学ぶ子どもの育ちをとらえる保育記録の書き方 0～2歳	中央法規出版	2021年	編著
ワークで学ぶ子どもの育ちをとらえる保育記録の書き方 3～5歳	中央法規出版	2021年	編著
書ける! 伝わる! 保育所児童保育要録 書き方&文例集	チャイルド本社	2018年	編著
書ける! 伝わる! 幼保連携型認定こども園園児指導要録 書き方&文例集	チャイルド本社	2018年	編著
書ける! 伝わる! 幼稚園幼児指導要録 書き方&文例集	チャイルド本社	2018年	編著
10の姿で伝える! 要録ハンドブック	学研プラス	2018年	監修
保育所 幼保連携型認定こども園の 要録の書き方	ひかりのくに	2018年	編著
幼稚園 幼保連携型認定こども園の 要録の書き方	ひかりのくに	2018年	編著
子どもの育ちが見える「要録」作成のポイント 一幼稚園、保育所、認定こども園対応	中央法規出版	2018年	編著
保育内容総論：乳幼児の生活文化	ミネルヴァ書房	2018年	単著
失敗から学ぶ 保護者とのコミュニケーション	中央法規出版	2018年	単著

ほか多数

大豆生田 啓友（おおまめうだ ひろとも）

玉川大学教育学部教授

〈プロフィール〉

学歴・職歴

青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻修了後
青山学院幼稚園教諭等を経て、現職

社会的活動

日本保育学会理事、こども環境学会理事、日本乳幼児教育学会理事
厚生労働省「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」委員（座長代理）
よこはま☆保育・教育宣言運用協議会委員、yahoo japan公式コメンテーター
NHK・Eテレ「すくすく子育て」出演、等

著書	出版社	発行年	備考
園のリーダーのための リスペクト型マネジメント 全2巻 「①組織改革の4つの視点」	フ レー ベ ル 館	2022年 8 月	単著
園のリーダーのための リスペクト型マネジメント 全2巻 「②語り合う保育の12か月」	角 川 新 書	2022年 8 月	単著
子どもが対話する保育 「サークルタイム」のすすめ	小 学 館	2022年	共著
子どもと自然（遊びが学びとなる保育実践シリーズ）	学 研	2022年	共著
非認知能力を育てる 「しつけない」しつけのレシピ	講 談 社	2021年	共著
マンガでわかる 子どもって「いいね！」のみつけかた	ひかりのくに	2021年	単著
園行事を「子ども主体」に変える！	チャイルド本社	2021年	単著
日本版 保育ドキュメンテーションのすすめ	小 学 館	2020年	共著
「語り合い」で保育が変わるー子ども主体の保育をデザインする研修事例集	学 研 み ら い	2020年	共著
子育てを元気にする絵本	エイデル研究所	2019年	単著
非認知能力を育てる あそびのレシピ 0～5歳児のあと伸びする力を高める	講 談 社	2019年	共著
日本が誇る！ていねいな保育 0・1・2歳児のクラスの現場から	小 学 館	2019年	共著
マンガでわかる！ 保育っていいね	ひかりのくに	2019年	共著
子どもの姿ベースの指導計画 3巻シリーズ	フ レー ベ ル 館	2019年	共著
教育・保育の現在・過去・未来を結ぶ論点一汐見稔幸とその周辺ー	エイデル研究所	2019年	共著

ほか多数

北野 幸子（きたの さちこ）

神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻教授

〈プロフィール〉

学歴

1993年：神戸大学教育学部幼児教育科卒業
1995年：ミネソタ大学特別研究員
1998年：広島大学大学院教育学研究科博士課程後期 幼児学専攻、単位取得満期退学
2001年：博士（教育学）、広島大学論文博士

職歴

広島国際大学、福岡教育大学を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻 教授

役職等

環太平洋乳幼児教育学会理事（2004～現在、役員：2018～現在、副会長：2021～現在）
日本乳幼児教育学会理事（2015～現在、常任理事：2021～現在）
日本保育学会理事（2016～現在）
国立教育政策研究所幼児教育研究センター所外研究員（2015～現在）
経済産業省 未来の教室とEdTech 研究会 研究委員（2018～2020）
全国保育士会キャリアアップ検討特別委員会委員長（2015～2017.3）
公益社団法人兵庫県保育協会理事（2016～現在）、公益社団法人全国私立保育連盟理事（2021～現在）
特定非営利活動法人全国認定こども園協会 アドバイザリーボード 構成員（2021～現在）
Economist Intelligence Unit（2012）、Starting Well. Benchmarking early education across the world. A report from the Economist Intelligence Unit. 調査協力者（2012）
UNICEF Innocenti Research Center Report Card 8. 拡大諮問委員（2007.2～2008.12）

専門分野

乳幼児教育学、保育学、保育領域の専門性

主著書

地域発・実践現場から考えるこれからの保育－質の維持・向上を目指して（2021）わかば社（単著）
Revisiting Paulo Freire' s Pedagogy of the Oppressed: Issues and Challenges in Early Childhood Education（2020）Routledge（共著）
子どもと保育者でつくる育ちの記録－あそびの中の育ちを可視化する－（2020）日本標準（監修・共著）
保育者論－子どもの未来を拓く保育者の役割－（2019）光生館（共著）
SAGE Handbook on Outdoor Play and Learning（2017）SAGE（共著）
子どもの姿ベースの3・4・5歳児指導計画（2019）フレーベル館（共著）

認定こども園の時代 (2016) ひかりのくに (共著)

主論文

園と保護者の連携における互惠性を考える～ベルギーフランダースにおける家庭との連携事

主著書

地域発・実践現場から考えるこれからの保育－質の維持・向上を目指して (2021) わかば社 (単著)

Revisiting Paulo Freire' s Pedagogy of the Oppressed: Issues and Challenges in Early Childhood Education

(2020) Routledge (共著)

子どもと保育者でつくる育ちの記録－あそびの中の育ちを可視化する－ (2020) 日本標準 (監修・共著)

保育者論－子どもの未来を拓く保育者の役割－ (2019) 光生館 (共著)

SAGE Handbook on Outdoor Play and Learning (2017) SAGE (共著)

子どもの姿ベースの3・4・5歳児指導計画 (2019) フレーベル館 (共著)

認定こども園の時代 (2016) ひかりのくに (共著)

主論文

園と保護者の連携における互惠性を考える～ベルギーフランダースにおける家庭との連携事例を中心に～ チャイルドサイエンス Vol.22 pp.9-14 (2021) (共著)

オンライン化時代におけるICT を活用した家庭と園の連携・協働 教育と医学 2021 7・8 月号 pp.52-59 (2021)

保育者の専門性と保育実践の質の維持・向上をはかる研修の実態 子ども学 第6号 pp.64-82 (2018)

家庭との連携に関する保育者の専門性に関する検討 保育学研究 第55巻3号 pp.9-20 (2017)

Building Children' s Sense of Trustworthiness towards Empathy and Social Morality. The 8th KSECE Biennial

International conference pp. 96-111 (2014)

Promoting Action Research in Early Childhood Education: The case of Japan. PECERA 13th Annual Conference:

Building a Community of Researchers: Children at the heart of Research, pp.22-24 (2012)

Current Issues in Assessment in Early Childhood Care and Education in Japan. Early Child Development and

Care Vol.181 No.1-2 pp.181-187 (2011)

子育て政策に関するグローバル・ガバナンスの状況と福岡の現状と展望－施設保育とかかわる政策を中心に－都市政

策研究 Vol.9 pp.21-29 (2010) (共著)

アメリカの保育専門組織による保育改革 国際幼児教育研究、Vol.17. pp.55-60 (2009) (学術賞受賞論文)

ケア・教育・子育て支援を担う保育士養成の実態と課題 社会福祉学 Vol.50 No.1 pp.123-133 (2009)

坂崎 隆浩（さかざき たかひろ）

社会福祉法人清隆厚生会理事長／こども園ひがしどおり園

〈プロフィール〉

略歴

神奈川県生まれ、青森県津軽地方育ち 下北在住。1 法人 3 施設2事業（青森県の下北と津軽）の理事長（2004年～）幼保連携型認定こども園こども園ひがしどおり園長（2012年～）。

主な役職

保育 3 団体実務者会議委員/社会福祉法人日本保育協会全国理事（2010年～）、同保育問題検討委員会認定こども園委員会委員長他、保育総合研究会会長（2021年～）

厚生労働省：地域における保育所、保育士等の在り方に関する検討会委員（2021年～）

農林水産省：「和食」と地域食文化継承推進事業「和食文化継承の人材育成等事業」検討委員（2019年～）

内閣府：幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に係る関係団体との検討会委員（2017年～）

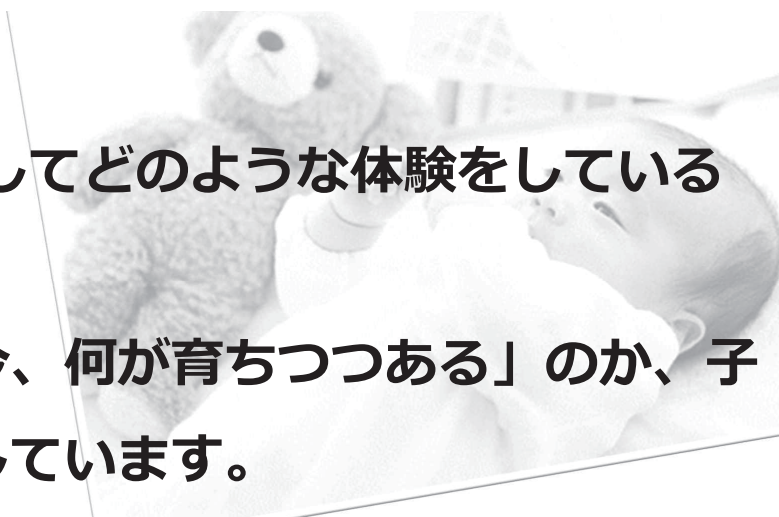
☆その他／1978年より指揮者・作曲家・音楽監督として活動。故三善晃氏等に師事。カーネギーホールやウイーン学友協会演奏。第29回青森県民文化祭には5度目の総合プロデュース、2時間の脚本作曲演出し成功。現在全日本合唱連盟青森県支部副理事長歴任中。

著書	出版社	発行年	備考
改訂版 保育サポートブック0・1歳児クラスの教育 指導計画から保育ドキュメンテーションまで	世界文化社	2021年	単著
改訂版 保育サポートブック2歳児クラスの教育 指導計画から保育ドキュメンテーションまで	世界文化社	2021年	単著
改訂版 保育サポートブック3歳児クラスの教育 指導計画から保育ドキュメンテーションまで	世界文化社	2021年	共著
改訂版 保育サポートブック4歳児クラスの教育 指導計画から保育ドキュメンテーションまで	世界文化社	2021年	共著
改訂版 保育サポートブック5歳児クラスの教育 指導計画から保育ドキュメンテーションまで	世界文化社	2021年	共著
平成30年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己チェックリスト100	世界文化社	2018年	単著
平成30年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己チェックリスト100	世界文化社	2018年	単著
平成30年度施行 新要領・指針サポートブック	世界文化社	2018年	共著
少子化時代の保育と教育	世界文化社	2017年	共著
幼保連携型認定こども園 教育・保育要領に基づく自己チェックリスト100	世界文化社	2016年	単著
幼保連携型認定こども園教育・保育要領サポートブック	世界文化社	2015年	共著
基本保育シリーズ（児童育成協会監修）	中央法規	2015年	共著
保育維新3「未来を育てる保育園」	世界文化社	2010年	共著

今、保育のなぜを科学する



大阪総合保育大学
大方美香



子どもは遊びを通してどのような体験をしているのでしょうか。

遊びながら、「今、何が育ちつつある」のか、子どもなりの探究をしています。

保育・幼児教育の奥深さを考えてみましょう。



**36ヶ月の発達過程における、
身体性、精神性の育ち、成長・発達、情動交流**

大人との関係
多様な影響を理解する



1) 保育学の学び

保育学は直接的には現代における乳児期の子育てがどうあるべきなのかを広い視野から学ぶと共に、保育学は赤ちゃんが「ひと」となるプロセスを学ぶこと。保育者のかかわりや指導法を学ぶこと。



2) 保育実践学からの学び

保育者はどう子どもに関わっていくのかを学ぶ保育実践学。

保育者は子どもとどのような関係を持つのか、

どのような目的を持って保育しているのかなどを学ぶ。

1 乳児保育に関わるねらい及び内容

(1) 基本的事項

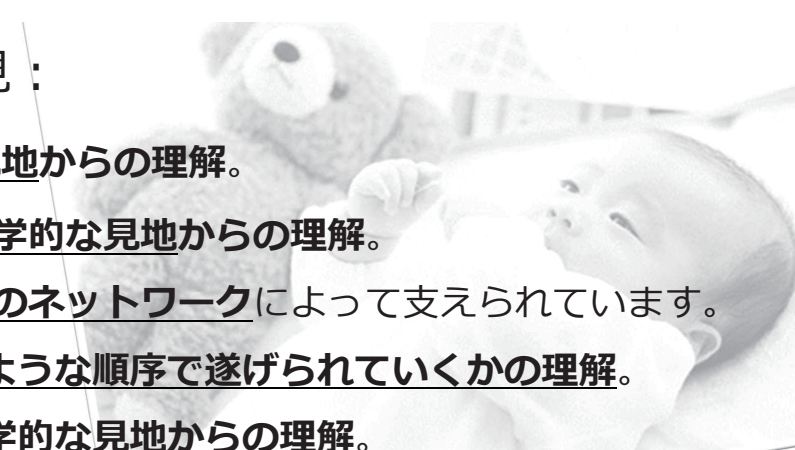
ア乳児期の発達については、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されるといった特徴がある。これらの発達の特徴を踏まえて、乳児保育は、愛情豊かに、応答的に行われることが特に必要である。

2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

(1)基本的事項

ア この時期においては、歩き始めから、歩く、走る、跳ぶなどへと、基本的な運動機能が次第に発達し、排泄の自立のための身体的機能も整うようになる。つまむ、めくるなどの指先の機能も発達し、食事、衣類の着脱なども、保育士等の援助の下で自分で行うようになる。発声も明瞭になり、語彙も増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。このように自分でできることが増えてくる時期であることから、保育士等は、子どもの生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。

今後の乳児保育の知見：

- 
- ① 生理学的・医学的な見地からの理解。
 - ② 大脳生理学と神経生理学的な見地からの理解。
 - ③ 子どもの運動は、神経のネットワークによって支えられています。
その成長・発達はどのような順序で遂げられていくかの理解。
 - ④ 乳児・幼児の発達心理学的な見地からの理解。
 - ⑤ 乳児・幼児の児童福祉を通して子どもの生活・
大人の生活から見た保育の実践・カリキュラムの理解。

0～2歳の「赤ちゃん学」
について高度に学ぶ



「脳科学」
「大脳生理学」
「運動生理学」を学ぶ

自分独自の場所をもつ。

3歳未満児は生きる世界を肯定する（信
頼する）と同時に、その世界を生きる自
分自身を肯定することの経験を積み重ね
、生きる上での根源的な力を体感し、身
に付けていく重要な時期として位置付け
られる。

■生涯の学びの出発点

子どもは生まれながらにして持っている力を十分に使うことを通して、生活や遊びのさまざまな場面で、積極的に周囲の人や物に注意を向けたり興味をもったりして、自らの身体で直接にかかわっていく。子どもは生まれた直後から学び始めている。

指針では「生涯における学びの出発点」と位置付けている。「学びに向かう力」は、乳児期に、周囲の保護者や保育士等に受け入れられ、見守り、促されることがあってこそ、「学び続ける意欲や意思」へと発達していく。

乳児（0歳児）の発達の姿と保育内容

指針では「第2章保育の内容」の各年齢区分の第1項目に、発達の姿とともに、この時期の子どもの保育において「愛情豊かに応答的に行われること」の重要性が記載されている。

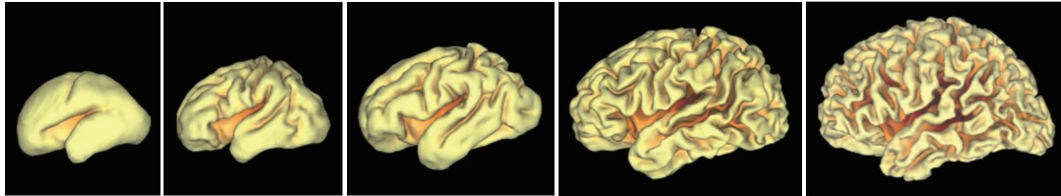
「愛情豊かに応答的に行われること」は、保育の主体は乳児にあるということ。

子どもから発せられるサインや子どものいまの状態の読み取りから、保育を展開する。

「総則1(3)保育の方法」の「ア... (略) ...子どもの主体としての思いや願いを受け止めること」につながる。

胎児脳の形成

■ 子どもの脳の形態は生下時にほぼ完成している



胎生25週

30週

33週

40週

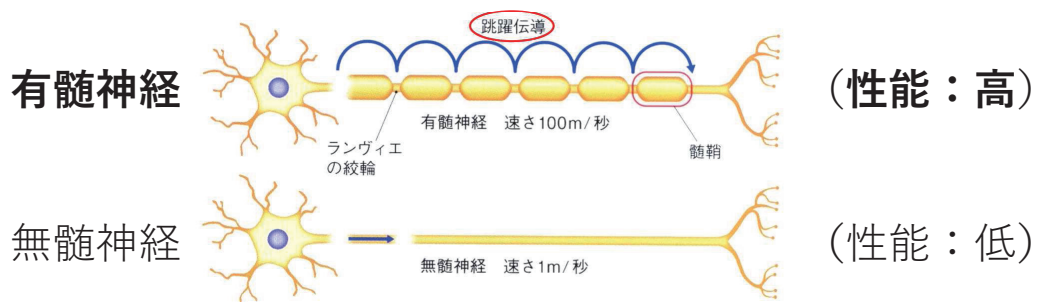
成人

※新生児の脳は既に極めて構造化されており、機能しているが、さらに0才児～3才児の3年間に脳は急速に発達する。
「三つ子の魂百まで」

By Dr. Van Essen (Washington University in St. Louis), USA

神経線維の種類

■ 神経線維 { 有髄線維：髄鞘（ミエリン鞘）あり
→ 伝導速度速い
無髄線維：髄鞘（ミエリン鞘）なし
→ 伝導速度遅い



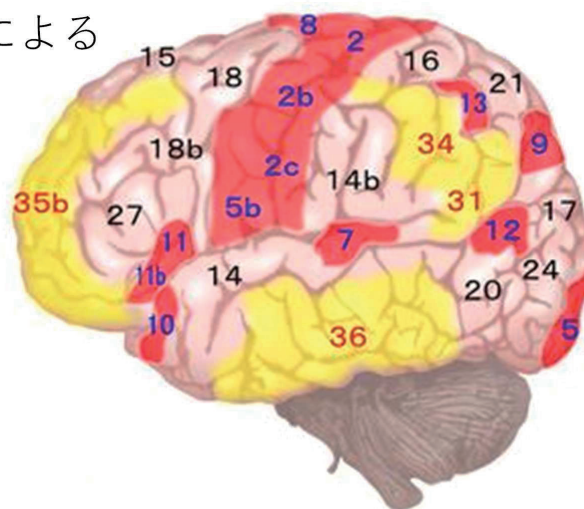
胎児や子どもの脳や神経は未成熟

- ヒトの神経系はほとんどが有髄神経からなる
- 胎児期に**無髄神経→有髄神経への変化**（髄鞘化）が進行する
- 誕生時には生命に必要不可欠の機能を担う神経のみが有髄化している
- 誕生後にも髄鞘化が進行し、その結果「できること」が増えていく
- 髄鞘化は青年期まで続く

脳の髄鞘化（外側面）

Paul Flechsig による
脳の髄鞘化地図

黄の部分は出生後長時間をかけて発達し、成長と共に青年期まで髄鞘化が進む高次機能を司る領域



赤い部分は生下時に既に髄鞘化しており、生まれた時から機能を発揮する領域

黒字の部分は生後1か月から順次髄鞘化が進む領域

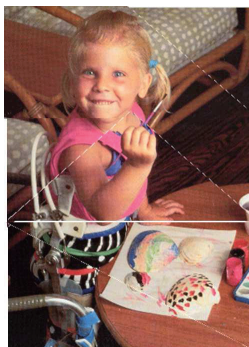
by 林 隆博@チャイルド・リサーチ・ネット(CRN)

乳幼児期は発達を断片的に見るのではなく、 全体として「全人的な子ども」を考える

認知的発達

微細・粗大筋
肉の発達

情緒の発達



コミュニケーション能力

身体の健康と
成長

知覚の発達

社会性の発達

保育所保育指針

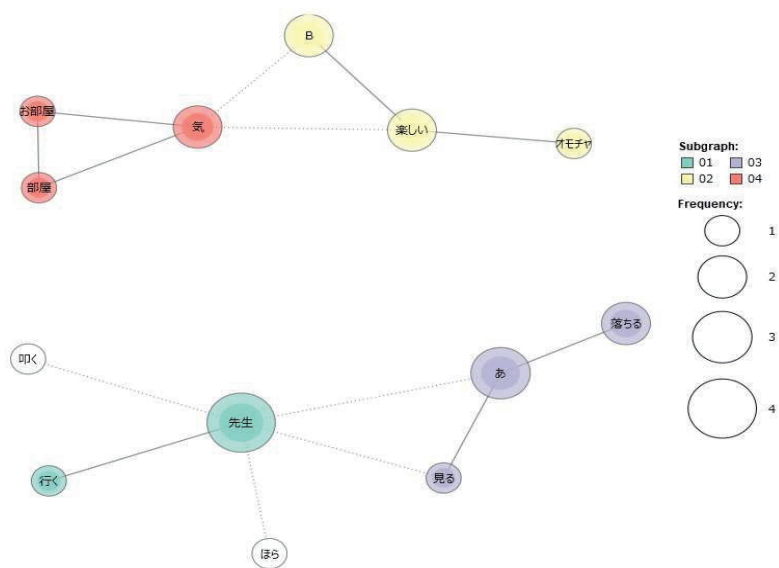
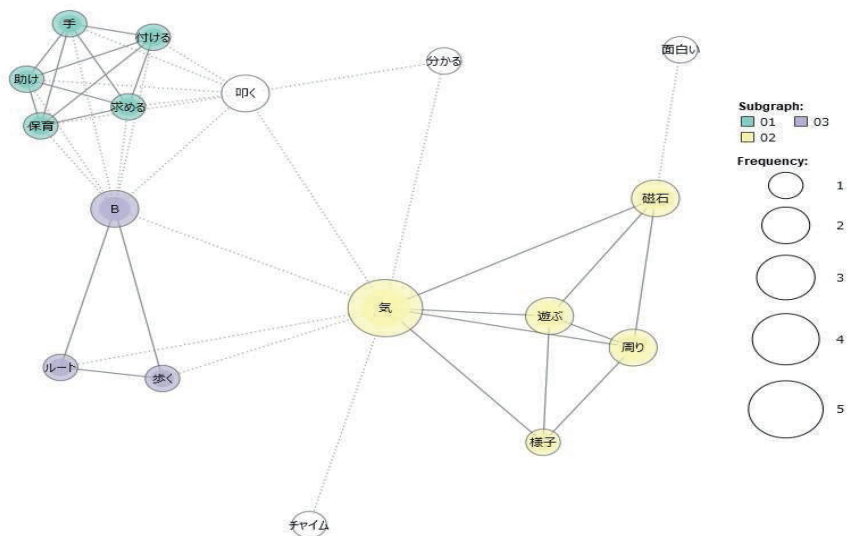
「保育士等は、自己評価における自らの保育実践の振り返りを通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にする（p62）」

保育者は、自身の保育を振り返る際に、どこに着目しているのか？

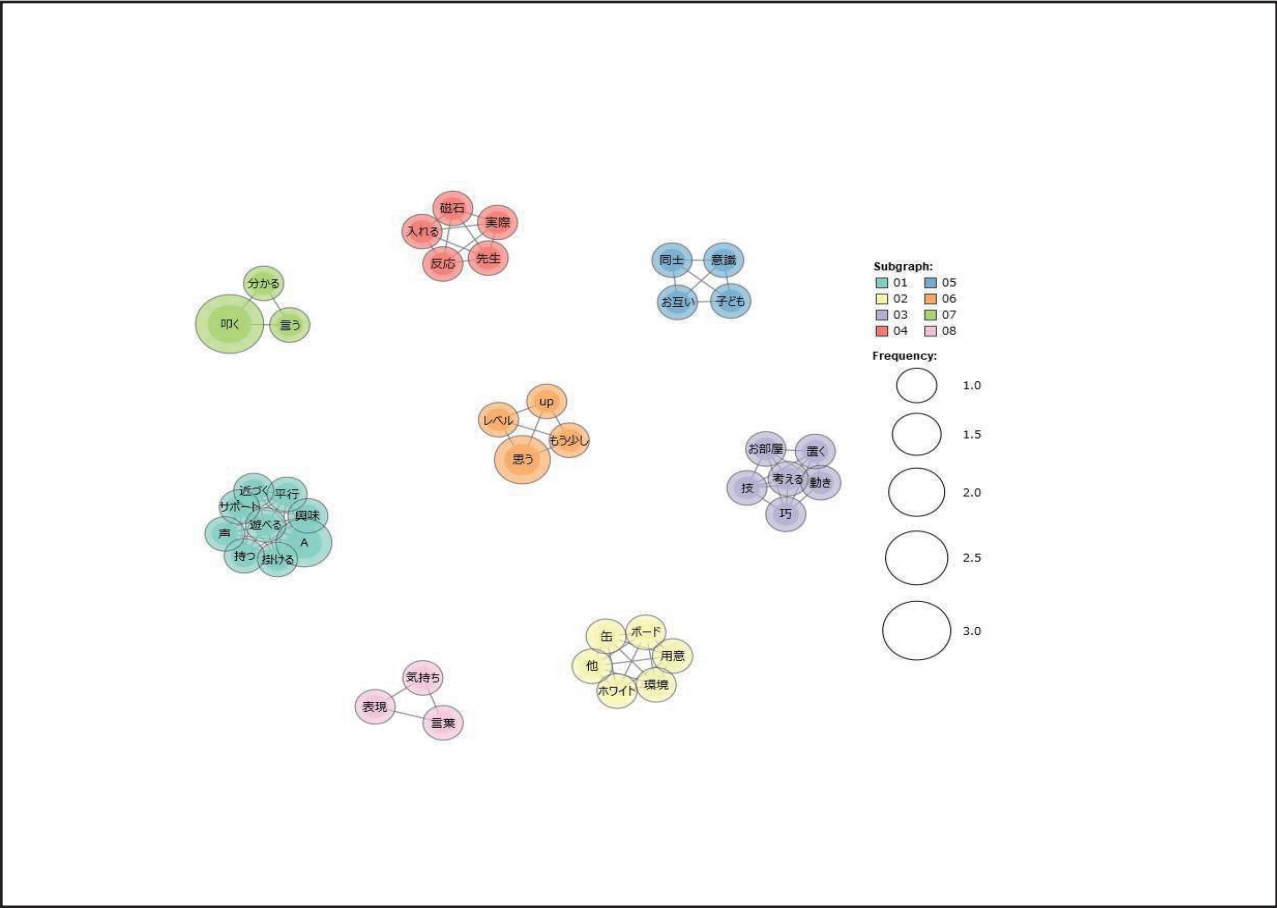
保育経験年数によって、保育者の子ども理解は異なるのか？

保育経験年数の違いによって保育者の行動に違いはないが、
子どもの遊びには大きな違いがあった。

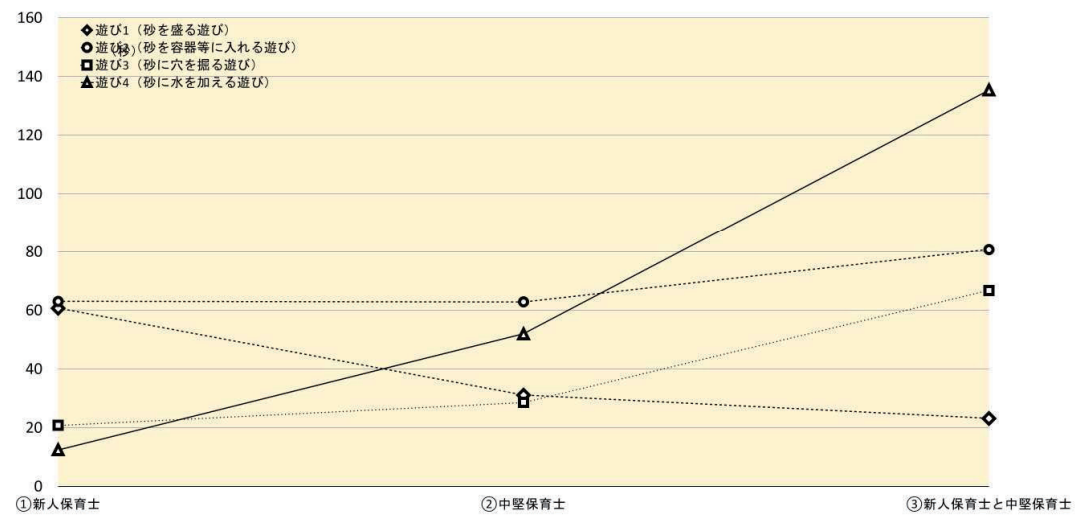
一見、同じような行動に見えていても中堅保育士は、子どもの興味関心に沿っているため子どもが遊びに没頭する。



貞松成 (2022)



保育経験年数別の子どもの砂遊びの比較



出所：貞松（2020）保育士の保育経験年数の違いが歳児の砂遊びに与える影響

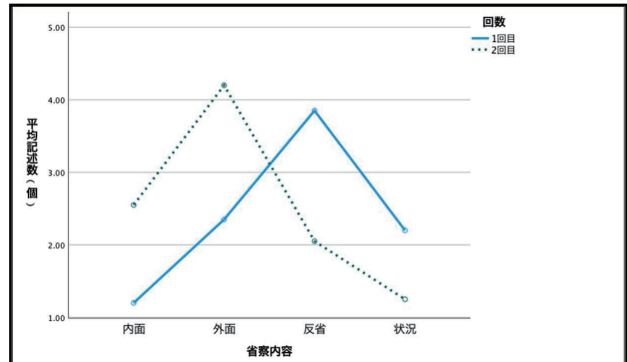
保育者の省察の着眼点

経験年数が多い保育者は子どもに合わせた保育を提供していることが示唆されたが、具体的の中堅者が子どもの遊びの何を見ているのかについて明らかにしていないため、保育者にビデオを2回見てもらい観察してもらった内容を経験年数別と回数別に比較することで着眼点を明らかにした。その結果、経験年数による有意差はなく、回数には有意差があった。保育者は、自分の保育を「反省」した後に、子どもを見ていた。

分類基準

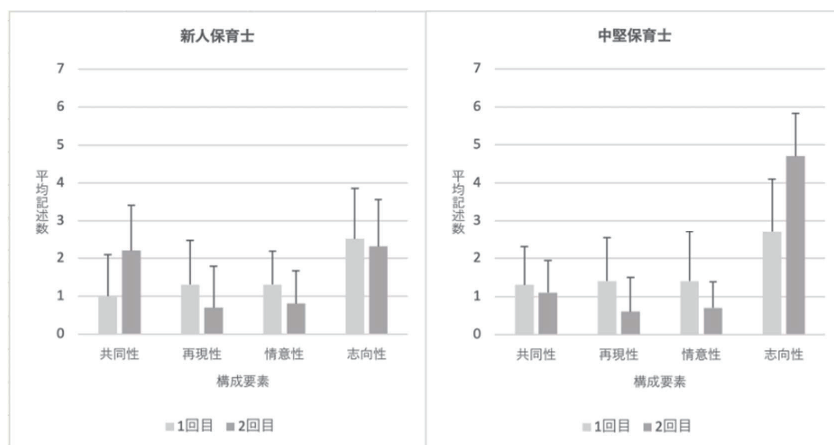
分類	基準
内面	子どもの気持ちや感情などの内面について触れている記述
外面	子どもの行動やその状況などについて説明した記述
反省	保育者が自身の言動について反省した記述
状況	保育者の行動や周囲の環境について説明した記述

1回目と2回目の省察内容別の平均記述数



貞松成 (2021) ビデオ・リフレクションによる子ども理解

保育者の子ども理解とは



新人の保育者は、子どもが誰かと遊んでいたら、その活動を子どもの興味関心と判断し、中堅は、子どもが何をしようとしているのかを推測して、その活動を子どもの興味関心と判断していた。

貞松成 (2022) ビデオ・リフレクションによる子ども理解

今、保育のなぜを科学する ～実践科学の探究～

北野 幸子
(神戸大学大学院)

実践科学としての保育学

人と接する専門職による保育実践

実践の科学化

一般化できることと、しにくいこと
測定できる部分と、できない部分

連携できる部分と、しにくい部分
一般化のみではなく、普遍的要素の抽出
可変的要素への注目
相互作用の中で、創発的に探究する部分

省察と対話の中で、問い続ける「質」

研究のスタート

保育者の専門性と 乳幼児教育保育領域の専門性の確立に関する研究

基礎研究から応用研究へ

基礎研究

文献研究・歴史研究からのスタート
＝保育者の専門性研究

博論

世紀転換期アメリカにおける幼児教育
専門組織の成立と活動に関する研究
－領域の専門性の確立を中心に－

＜なぜアメリカか。。。＞

公教育としてのKindergarten

(1) 保育者の専門性

養成教育・研修

実践の在り方

(2) 領域の専門性の確立

独自性・重要性の分析

提供体制の調査

評価、可視化・発信

国際比較

(1) 科学研究費補助金(2000～2001年度)「アメリカの保育職能団体が保育の専門職化に果たした機能に関する史的研究」(H12-3:科研)

(2) 科学研究費補助金(2002～2004年度)「保育者の現職教育・研修に関する日米比較研究」(H14-6:科研)

(3) 厚生労働科学研究費補助金(2006年度)教育・子育て支援を担う保育士養成システムの現状調査と4年制モデル養成システムの検討

「保育者の専門性」に関する研究で明らかになったこと

可変的要素と普遍的要素 (理論知と実践(経験)知)

理論知の基盤としての発達知

小学校教育との連携と対比(前倒しや準備教育ではない独自性)

家庭教育との連携と対比(家庭の代替機能のみではない独自性)

遊び・生活の援助における保育者の専門性

教科主義教育ではない、経験主義教育

「領域の専門性の確立」に関する研究で明らかになったこと

専門性の要件の整備(理念・倫理・知識・技術)

専門性の維持: 認可システムの構築、養成システムの整備

専門性の向上: 専門性の「質」の検討／整備、学習の継続(研修)、社会的認知

基礎研究から得られた課題

実践(経験)知に依存する傾向が高く、科学的根拠づけが不足

保育領域の専門知識と技術、活用能力の検討が不足

→ 可視化と説得可能な分野との連携: 運動発達、音楽(ピッチマッチング)等

実践科学の限界への挑戦

→ 個別性、偶発性、ライブ性: 参与観察、実践研究、保育カンファレンスの実施

応用研究へ

新しい時代の保育 保育の科学とともに

少子化と人材育成

個別最適化教育

Agent としてのこども

子どもの権利保障



「自立心」

「チャレンジ精神」「レジリエンス」

「自然との共生」「リアリティ」

保育の科学化にむけて

保育の質について、その機能、専門性、重要性に
ついての共通認識の醸成

協働的、省察的、対話的な、支援

科学的根拠に基づく

理念・信念と、判断、さらに応答するしなやかさ

「保育の質」

私たちの理解の深化へ

自負と誇りをもって発信できるように

地域の乳幼児教育専門機関として**可視化**と**発信**を

家庭（保護者と子どもたち）へ

小学校教諭や教育専門職へ

地域福祉専門職へ

行政へ

民間企業や組織へ

**地域発・
実践現場から考える
これからの保育**

質の維持・向上を目指して

KITANO Sachiko
北野幸子

わかば社

最近の研究

2017年幼稚園教育要領・保育所保育指針等、改訂を踏まえた研究

神戸市教育委員会：幼小接続研究（神戸市受託研究）

堺市：10の姿の振り返り資料の開発（堺市受託研究）

研修開発研究

兵庫県、神戸市、舞鶴市、等

保育者の専門性の探究

全国保育士会

日本保育協会

大阪府私立幼稚園協会

福井県私立幼稚園協会

ICTの活用

位置測位データを活用した可視化等（文科事業）

家庭との連携ツールの開発（産官学連携）

国際比較研究

指針・要領比較：13か国のBasic Values比較

アジア各国のCovid-19下の子どものウェルビーイング調査（ベネッセCRNA）

兵庫県の試み幼保こ公私の一体化

2016年8月：「兵庫県内認定こども園関係団体協議会」設置
（行政、公立民間の保育園、私立幼稚園）

2017年3月：「兵庫県幼保連携型認定こども園園長資格認定
等研修検討委員会」設置

①原論(9H)、②実践(7H)、③連携(7H)、④運営(7H)

知事による認定資格➡知事の資格認定

全県幼児教育連携推進事業

全県フォーラム

グループ別研修会

全家庭へのガイドライン配布

すくすくひょうごっ子



神戸市の取り組み

2018年～ こども家庭局・神戸大学共同研究

乳幼児保育研究部会

公開保育

実践検討会

研修会

全体会

舞鶴市における地域一体型研修の試み

きっかけ:新システムの元、地域にできること

キーワード:

保育の専門性の可視化と発信

実践の専門知、公開保育、ドキュメンテーション

次世代育成コミュニティの創生

(公私、幼保、中学校まで)

実施内容

公開保育、実践検討会

ワークショップ型 ドキュメンテーション研修

舞鶴市における地域一体型研修の試み

きっかけ:新システムの元、地域にできること

キーワード:

保育の専門性の可視化と発信

実践の専門知、公開保育、ドキュメンテーション

次世代育成コミュニティの創生

(公私、幼保、中学校まで)

実施内容

公開保育、実践検討会

ワークショップ型 ドキュメンテーション研修

乳幼児教育センター

保幼子小中、保育専門組織、地域組織、PTAなどが行政と連携

研修開発、指定校・園研究、家庭支援

次世代子ども子育て支援:家庭科な度も巻き込みながら

公開保育 実践検討会

事前訪問(園スタッフ、行政、研究者)

指導案、公開保育、実践検討会

公開保育・実践検討会

みられる・評価される

→ 明日の保育のヒントが得られる
直接、具体的に、園立場を越えて
一緒に考える

地域の保育が変わる:子ども主体の保育へ

ワークショップ型 ドキュメンテーション研修

研修で工夫したこと

単発 → 継続

聴講型 → 参加

グループワーク

学び合い

地域の次世代育成の同僚性の形成

ドキュメンテーション

記録の技術(だけ)ではなく、

結局は、実践の質の問題を考える、向上に繋げる

誕生から積み上げられて、
育まれる

自尊心／思いやり／自制心

保育者の援助／環境構成／
相互作用への援助、

等の特徴の集約、分析

子どもと保育者でつくる 育ちの記録: あそ
びの中の育ちを可視化する



おわりに

